

立教大学校友会報

http://www.rikkyo.ac.jp/koyu/



セントポール

ST. PAUL'S ALUMNI



発行所 立教大学校友会 〒171-8501 豊島区西池袋 3-34-1 電話 03(3985)2634 発行人 田尾 兵二 編集人 石崎 孟

主なニュース

- 2面 立教スポーツ
3面 第49回ホームカミングデー開催報告
8面 「地域立教会を訪ねて」第24回大阪支部

変わりゆく立教大学

新施設紹介

2011年4月から利用を開始したマキムホール(池袋キャンパス)をはじめ、現在、立教大学ではさらなる教学の発展を目的とし、施設整備計画を進めています。今号では、立教大学の新施設を「紹介します」。

今秋 池袋キャンパスにロイドホール(地下2階、地上7階建て)誕生

図書本館、人文科学系図書館、社会科学系図書館、自然科学系図書館に分かれています。新しく中央図書館が、新しく生まれ変わります。収蔵冊数は約200万冊、閲覧席数は約150席の大規模図書館となります。また、研究施設のほか、ゼミナールでの発表準備などに利用できるグループ学習室も設置され、様々な学習スタイルに応じた施設を整備します。

新しく生まれ変わった富士見総合グラウンド

老朽化・狭隘化したクラブハウスの建て替え、および各グラウンドを整備しました。水勾配を確保して、降雨後のグラウンドコンディションの回復を早めたことにより各部の練習時間も確実に増えています。また、新しい2階建てのクラブハウスの中には、多くのミーティングルームを設けています。各部がより練習に励みます。素晴らしい成績を残すことが期待されます。

新座キャンパスでも新施設利用開始(2011年4月より)

教育研究活動の推進と学生数増加に対応するため新しい教室棟の利用を開始しました。英語デイスカッショングループやグループワークに適した演習室や、PC教室などが配置された8号館は地下1階、地上5階建てです。また、学生食堂「こかげ」も利用が開始されています。4号館1階のコモンルームには新しくサンドウィッチチェーンの「SUBWAY」が入り、近接の「こかげ」とあわせて、多くの学生に利用されています。



鈴懸の径から望むロイドホール(池袋キャンパス)



立教通りから望むロイドホール(池袋キャンパス)



新クラブハウス全景(富士見総合グラウンド)



新学生食堂「こかげ」(新座キャンパス)



新チャペル会館完成予想図

1954年に建てられた現在の池袋チャペル会館は、本学のキリスト教活動の拠点として長く愛されてきましたが、老朽、狭隘が進んできたため、このほど、建て替えられることとなりました。新チャペル会館は、地上3階、地下1階建て。学生等の交流スペースが設けられ、キリスト教活動を支える、全学に開かれた施設をコンセプトにしています。主な施設として、チャペレンス、事務室、学生キリスト教団体の活動スペース、音楽リハーサル室、結婚式の控室にもなる会議室などが配置されるほか、多目的室には現在の池袋チャペルのパイオルガンがリメイクされて移設されます。立教におけるキリスト教活動のさらなる活性化に大いに貢献することとなるでしょう。着工は本年4月、竣工は来年7月の予定で、現在の

建物を解体した跡地を含む場所に建設されます。なお、工事期間中、現在のチャペル会館の各機能は、耐震補強工事が完了した本館(モリス館)1階、および3号館2階に一時的に移転します。

現在のチャペル会館に、「ありがとう」と「さよなら」を一緒に伝えませんか? 私たちの青春をささえてくれた感謝をこめて...

感謝礼拝 13時、茶話会 14時、立教学院諸聖徒礼拝堂 および第一食堂

おなたでもご参加いただけます。▽問合せ先 チャペレンス事務課 03・3985・2698

チャペルより結婚式中止期間のお知らせ

2013年4月から2014年4月(予定)は、立教学院諸聖徒礼拝堂のオルガン設置工事および建物改修工事のため、結婚式を行うことができません。挙式を希望されている校友のみなさまには大変申し訳ございません。なお、結婚式は2014年5月、申込受付は2013年5月より再開を予定しております。

時計台 (Clock Tower) section with an image of the tower and a small text box.

一年間の世相を一字で示す 2011年の漢字に「絆」が選ばれた。東日本大震災をはじめ国内で大きな自然災害が相次ぎ、人の繋がり大切さが改めて感じられたことや、サッカー女子W杯で初優勝した「なでしこジャパン」のチームワークが主な理由だそう。その記事を読んで、家族との絆、とりわけ父との絆について思いを巡らせた。▼私は幼い頃から、厳格な父親に反発し、父子で仲良く過ごすということはほとんどなかった。父との会話で鮮明に覚えているのは三つしかない。▼一つ目は高校進学時の「長嶋さんが出た大学だから、立教にしなさい」という言葉だ。父は熱烈な長嶋さんのファンで、反対する余地もなく進学を決めた。二つ目は、就職活動に苦戦した時の「本当に何のために働きたいのか考えなさい」という言葉。自分が働きたい最大の理由は、「社会貢献をしたい」のではなく、「親を安心させたい」のだと気づき、志望動機を書き換えた。三つ目は転職を考えて悩んでいた時の「お前みたいな人間に仕事を教え、世話してくれたい人の事を考えなさい」という言葉で、悩み抜いた末に下した決断に後悔はない。▼2児の父となった今、子どもとの接し方や将来を考えるようになり、父が厳格だった理由も、少し理解できる。交わした言葉は少なくとも、肝心なことや本音を端的に言ってくれたことが、人生の岐路に立った私の背中を押してくれたのだ。いずれ子どもが悩んだ時に、肝心な言葉を伝えられる人間に私もなりたいたいと思う。なお、父は厳格と正反対の接し方で孫達と「絆」を結んでいる。(平10 経 田畑 一郎)